

【復活のトロパリ 第6調】

てんし の ぐんなんぢ の はかに あらわれ しに、  
天 使 軍 爭 墓 現

ばんpei いしせしもののごとし、マリヤはか  
番 兵 死 者 如 墓

にたちて、なんぢのいさぎよきからだをたづね  
立 爪 潔 體 尋

たり。なんぢはぢごくにいざなわれず  
爾 地 獄 誘

して、ぢごくをとりこにし、いのちをた賜  
地 獄 虞

もうものとして、しょぢよにあいたまえり。  
者 處 女 逢 給

しよりふくかつせししゅよ、こうえいは  
死 復 活 主 荣

なんぢにき歸す。

【日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ 第4調】

しととひとしくどうざなるもの、ちゅう  
使徒等 同座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい  
實 神智 役 者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい  
神 撲 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう  
 満器、我國に光  
 しよ うしゃ、あしとしゅきょうせいいニコライ  
 照者、亞使徒主教聖  
 よ、なんぢのぼくぐんのた爲め、および  
 爾羊群爲め、  
 ぜんせかいのために、いのち命をた賜もうせい  
 全世界爲めに、  
 さんしやにいのりたまえ。  
 三者 祈給

【 日本の亞使徒聖ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはち父とこ子とせ聖いしんにき歸  
 光榮は父と子と聖神に歸す、  
 せいせいしやあしとせいいニコライよ、わが我  
 成聖者亞使徒聖  
 くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ  
 國爾旅人及異邦人受  
 しに、なんぢはははじめわがくににおいておの  
 尔初はじめ我國に於いてお己  
 れをがいらいしやとしりたれども、ハリストの  
 外來者知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて  
 光 暖 流 爾 敵  
 きをぞくしんのこととなし、かれらにか  
 屬 神 子 爲 彼 等 神  
 みのおんちょうをあたえ、パストスのきょうかいをたて  
 恩寵 與 教會 建  
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり  
 今 此 教會 爲 祈  
 たまえ、けだしわれらそのしょしはなん  
 紿 蓋 我 等 其 諸子 爾  
 ちによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ  
 呼 我 善 牧 者 慶  
 ベ よ 。

【復活のコンダク 第6調】

いまもいつ もよよに、アミン。  
 今 何時 世世

いのちのげんいんたるパストスかみはいのちを  
 生命 原因 神 生命

ほどこすてをもってしせしものをくらきた  
 施 手 以 死 者 暗 谷

によりいだして、ふくかつをじんるいに  
 出 復 活 人 類

たまえり、しゅうじんのきゆうせ世  
賜衆人救世  
いしゅ主復  
くかつといのち命、およびしゅうじんのかみな  
活生及衆人神  
ればなり。

司祭) ( 黙誦: 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、

ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有

ひとなんぢぞうしようよつくりなんぢもろもろたまものもつこれかざ  
となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾

り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に

つうかいたわれらいやふとうなんぢしょぼくこときおいなんぢ  
痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が

せいさいだんこうえいまえたなんぢとうぜんふくはいさんえいたてまつた  
聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる

ものしゅさいなんぢみづかわれらざいにんくちせいさんうたうなんぢ  
者となし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の

じんじもつわれらのぞわれらおよじゅうじゅうつみゆるわたましい  
仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈

からだせいわれらしようがいぜんこうもつなんぢつとえたませい  
と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖

なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) けだしわ kami なんぢせい われらこうえいなんぢちちこせいしんけん いまいつよよ  
蓋 我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世

に、

アミン。

### 【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
聖神聖勇毅聖

ジョウセイのものよ、われらをあわれめ  
 常生者我等を憐  
 よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
 聖神勇毅聖  
 なるじょうせいのものよ、われらをあわれ  
 常生者我等を憐  
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
 聖神勇毅  
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ  
 聖常生者我等を憐  
 れめよ。こうえいはちちとことせいしん  
 光榮父子聖神  
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。  
 歸今何時世世  
 せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ  
 聖常生者我等を憐  
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖神勇  
 き、せいなるじょうせいのものよ、われ  
 聖常生者我等を  
 を  
 あわれめよ。  
 憐

司祭) ( 黙誦: 主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 )

【 プロキメン 提綱 主日第6調 】

司祭) つつしき 聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、爾の民を救い、爾の業に福を降し給え、

しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに  
主 爾 民 救 爾 業  
ふくをくだしたまえ。  
福 降 紿

誦經) 主よ、我爾に呼ぶ、我の防固よ、我が爲に黙す母れ、

しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに  
主 爾 民 救 爾 業  
ふくをくだしたまえ。  
福 降 紿

誦經) 主よ、爾の民を救い、

なんぢのぎょうにふくをくだしたまえ。  
爾 業 福 降 紿

【 アポストロス 使徒經 220 端 エフェス書2章4節～10節 】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パヴエルがエフェス人に達する書の讀、

司祭) つつしき 聽くべし、

誦經) 兄弟よ、矜恤に富める神は、其我等を愛する大なる愛に縁りて、我等罪に由りて死

せし者をハリストスと偕に生かせり、爾等恩寵を以て救われたり、彼と偕に復活せし

め、ハリストス・イイススに在りて天に坐せしめたり、未來の世に於て、其ハリストス・イイ

あ われら ほどこ じんじ もつ おんちょう あふ とみ しめ ため けだしなんぢ  
 ススに在りて我等に施しし仁慈を以て、恩寵の溢れたる富を示さん爲なり。蓋爾  
 ら おんちょう もつ しん よ すく こ なんぢら よ あら かみ たまもの おこない  
 等は恩寵を以て信に由りて救われたり、是れ爾等に由るに非ず、神の賜なり、行  
 よ あら ひと ほこ ため けだしわれら かれ つく もの  
 に由るに非ず、人の誇ることなからん爲なり。蓋我等は彼の造りし者にして、ハリスト  
 ス・イイススに在りて善き功の爲に造られたり、即神が我等の行わん爲に、あらかじ  
 そな ところ 備えし所なり。

\* \* \* \* \*

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし——あなたがたの救われたのは、恵みによるのである——キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。それは、キリスト・イエスにあってわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示すためであった。あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。

\* \* \* \* \*

### 【 アリルイヤ 主日第4調 】

司祭) なんぢ 爾に平安、

誦經) なんぢ 神にも、

司祭) 睿智、

誦經) アリルイヤ、



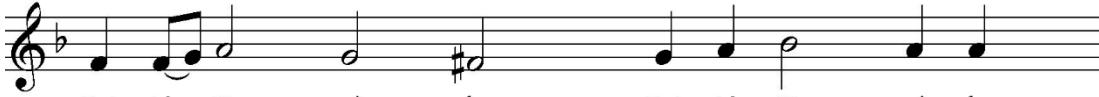
誦經) 神よ、爾の寶座は世世に在り、爾の國の權柄は正直の權柄なり、





ア リル イ ャ。

**誦經** 爾は義を愛し、不法を惡めり、



ア リル イ ャ、ア リル イ ャ、



ア リル イ ャ。

**司祭** ( 黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の淨き光を輝かし、我が思念

めひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わうち なんぢ ふく いましめ  
の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ  
畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ  
を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

なんぢ わ たましい からだ こうしよう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん  
爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし

いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ  
て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 )

**【エヴァンゲリオン  
福音經 ルカ福音書39端 8章41~56節】**

**司祭** 睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、

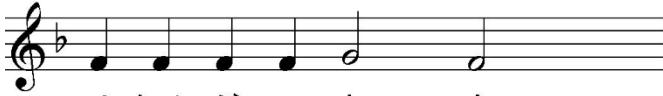


なんぢのしんに も。  
爾 神

**司祭** ルカ傳の聖福音經の讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにき歸。  
主 光 荣 爾



はなんぢにき歸。

**司祭** 謹みて聽くべし、彼の時イアイルと名づくる人にして、會堂の宰たる者、來りてイイ

そくか ふふく そのいえ い もと ひと かいどう つかさ もの きた  
ススの足下に俯伏し、其家に入らんことを求めたり、蓋彼に獨の女、年約十二

もの者ありて、今死せんとせり。彼が行く時、民之に擁し連れり。十二年血漏を患うる  
おんないしためそのことごとしゆうついやひとりいやえもの婦、醫師の爲に其悉くの所有を費したれども、一人にも瘡さるるを得ざりし者は、  
あとつかれころもすそさわそのけつろうただちとどまいたれか後より就きて、彼の衣の裾に拘りしに、其血漏直に止れり。イイスス曰えり、誰か  
われさわしゅうみとときおよかれともあものいふうしたみなんぢ我に拘りたる。衆の認めざる時、ペトル及び彼と偕に在りし者曰えり、夫子、民爾  
めぐおせまなんぢたれわれさわいしかいわれを繞りて擁し逼るに、爾は誰か我に拘りたると謂うか。然れどもイイスス曰えり、我に拘  
りし者あり、蓋我能の我より出でしを覺えたり。婦は自ら隠す能わざるを見て、  
おの戦きて來り、彼の前に俯伏して、彼に拘りし故、又如何にして立に愈されしを、  
かれしゅうみんまえつけられこれいむすめこころやすなんぢしんなんぢ彼に衆民の前に告げたり。彼は之に謂えり、女よ、心を安んぜよ、爾の信は爾  
すぐあんぜんゆかれなおいときかいどうつかきいえひときたいわなんぢを救えり、安然として往け。彼が尚言う時、會堂の宰の家より人來りて曰く、爾  
むすめすでしわづらなかこれきつかきこたいおその女已に死せり、師を煩わす勿れ。イイスス之を聞きて、宰に答えて曰えり、懼るる  
なかただしんかれすぐいえきたおよしおぢよ勿れ、惟信ぜよ、彼は救われん。家に來りて、ペトル、イオアン、イアコフ、及び少女  
ふぼほかたれいゆるしゅうじんためなかなしかれあざわらかれしゅうの父母の外、誰にも入ることを許さざりき。衆人爲に哭き哀めるに、彼曰えり、哭く勿  
かれしらあらすなわちいひとびとそのししかれあざわらかれしゅうれ、彼は死せしに非ず、乃寝ぬるなり。人人其死せしを知りて、彼を晒えり。彼衆  
そといだそのとよいしょうぢよおそのしんかえただちおを外に出して、其手を執りて、呼びて曰えり、少女、起きよ。其神返りて、直に起きた  
かれこれしょくあためいそのふぼおどろかれらいましおこなり、彼は之に食を與えんことを命ぜり。其父母駭きたり、イイスス彼等に戒めて、行  
われしことひとつなかわれし事を人に告ぐる勿らしめたり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) その時、そこに、ヤイロという名の人がきた。この人は会堂司であった。イエスの足もとにひれ伏して、自分の家においでくださるようにと、しきりに願った。彼に十二歳ばかりになるひとり娘があつたが、死にかけていた。ところが、イエスが出て行かれる途中、群衆が押し迫ってきた。ここに、十二年間も長血をわざらっていて、医者のために自分の身代をみな使い果してしまったが、だれにもなおしてもらえなかつた女がいた。この女がうしろから近寄ってみ衣のふさにさわつたところ、その長血がたちまち止まってしまった。イエスは言われた、「わたしにさわつたのは、だれか」。人々はみな自分ではないと言つたので、ペテロが「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合つてゐるのです」と答えた。しかしイエスは言われた、「だれかがわたしにさわつた。力がわたしから出て行つたのを感じたのだ」。女は隠しきれないのを知つて、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわつた訳と、さわるとたちまちなおつたことを、みんなの前で話した。そこでイエスが女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救つたのです。安心して行きなさい」。イエスがまだ話しておられるうちに、会堂司の家から人がきて、「お嬢さんはなくなられました。この上、先生を煩わすには及びません」と言った。しかしイエスはこれを聞いて会堂司にむかつて言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ」。それから家にはいられるとき、ペテロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほ

かは、だれも一緒にいって来ることをお許しにならなかった。人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。イエスは言われた、「泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである」。人々は娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。イエスは娘の手を取って、呼びかけて言われた、「娘よ、起きなさい」。するとその靈がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。イエスは何か食べ物を与えるように、さしづをされた。両親は驚いてしまった。イエスはこの出来事をだれにも話さないようにと、彼らに命じられた。

\*\*\*\*\*

The musical notation consists of two staves of music. The top staff starts with a G clef, a key signature of one flat, and common time. It has lyrics in Japanese: "しゅよ、こうえいはなんぢにき歸し、こうえい" (Lord, O Glory, how long shall I tarry). The lyrics "はなんぢにき歸す。" (Return to us) are on the second staff, which also has a G clef and a key signature of one flat.

※ 聖体礼儀③（金口イオアン）へ